

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	A-154	15-021 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Tobacco-, alcohol-, and drug-attributable deaths and their contribution to mortality disparities in a cohort of homeless adults in Boston.</p> <p>ボストンのホームレスコホートにおけるタバコ、アルコール、薬物に起因する死亡と死亡率への寄与</p>		
執筆者		
Baggett TP, Chang Y, Singer DE, Porneala BC, Gaeta JM, O'Connell JJ, Rigotti NA.		
掲載誌		
Am J Public Health. 2015 Jun;105(6):1189-97. doi: 10.2105/AJPH.2014.302248.		
キーワード		PMID
タバコ、アルコール、薬物、死亡率、成人ホームレス		25521869
要 旨		
目的：		
成人ホームレスのコホートにおけるタバコ、アルコール、薬物に起因する死亡および死亡率への寄与率を明らかにする。		
方法：		
2003年から2008年に実施された Homeless Program における成人 28,033 名の死因をボストン保健センターより確認し、タバコ、アルコール、薬物使用に起因する死亡数ならびに、人口寄与危険割合を算出した。また、率比と率差を使用して寄与死亡率をマサチューセッツ州成人と比較した。		
結果：		
死亡者 1,302 名のうち 236 名がタバコに、215 名がアルコールに、286 名が薬物に起因していた。死亡の 52% はこれら 3 つのいずれかに起因していた。マサチューセッツ州の成人と比較して、タバコ寄与死亡率は 3 倍から 5 倍高く、アルコール寄与死亡率は 6 倍から 10 倍高く、薬物寄与死亡率は 8 倍から 17 倍高かった。ホームレスコホート成人とマサチューセッツ州成人との総死亡率差の 57% は、物質に関連した死亡によって説明された。		
結論：		
本研究において、成人ホームレス死亡の半数は、タバコ、アルコール、薬物といった物質に起因していたが、一般住民との死亡率の差異を十分に説明しなかった。よって、物質中毒と非中毒双方に焦点をあてた介入が必要と考えられる。		